----------7月5日----------

※　今週のアウトルック(7/5～7/9)

先週は米国雇用統計の悪い予測に左右される動きとなったような気がします。数か月前までは経済指標の発表に大きく動かされる傾向が少なかったのですが、この数週間は大きく影響されているようです。
ギリシャ危機も米国にとってはある意味対岸の火事的な要素が強かったはずですが、最近になって米国の経済指標にも影響が出だしたように思います。
金曜日の雇用統計発表後、悪い結果を織り込みすぎた状態から、買い戻しが優勢とはなりましたが、今週もこの買い戻しが継続するとは考えづらいところです。

ドル円は、買い戻しで一度は反発していますが、今年の最安値を更新し、88円割れで週末を迎えています。この状態からは何かの理由を見つけては売りたたき、という状況は今週、避けれれないかもしれません。昨年の最安値の85円あたりがターゲットになる可能性も考慮しておく必要があるように思います。
ドル円の予想レンジは85円から89円です。

ユーロは、ドル安とギリシャ問題のひとまずの鎮静化、東欧やスペイン、ポルトガルなどに大きな動きがないため、買い戻しから上昇トレンドにあるとも考えられます。またユーロ安からドイツなどの経済指標が若干良いことも影響しているようです。
今週もこの動きが継続するかについては難しいようにも思います。112.5円あたりをブレイクできればしばらく上昇トレンドが続くかもしれません。が、ここで折り返した場合、買い戻し終了からの売りたたきも十分に考えれれます。またドル円が85円あたりに到達した場合は、一気に円独歩高の可能性も高まりそうです。
ユーロ円の予想レンジは108円から112円です。

ポンド円も上昇トレンドにあるという見方もできそうですが、基本的にはまだ買い戻しの領域を出ていないように思います。
また、ポンド危機の再燃はいつ起こっても不思議はない状況のようにも思います。ポンド高はそれほど長続きしないのではないかというところが基本的な見方です。
ポンド円の予想レンジは132円から136円です。

今週はドル安、ユーロ、ポンド高で始まる可能性はありますが、その傾向がどこまで続くかがポイントとなりそうです。まだ強いトレンドが出るよりも、大きく振られる状況を想定しておいた方が良いように思います。

＊免責事項＊
当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。